

第3回 第14期小平市緑化推進委員会 会議要旨

○開催日時 平成27年1月21日(木) 午後6時30分～午後8時40分

○開催場所 中央公民館 学習室4

○出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、佐野委員、田中委員
川島委員、菊地委員、丹治委員、千葉委員、宮村委員(順不同)

○傍聴人 なし

○議題 (1) 第14期の検討課題について
(2) その他

○配付資料 (1) 第3回 第14期小平市緑化推進委員会次第
(2) 私が思う第14期検討課題について
(3) 小平の用水路パンフレット 2部

会議の要旨

委員長

本日の配付資料について簡単に説明してほしい。

事務局より配付資料(1)及び(2)について、説明があった。

委員

配付資料(3)の小平の用水路(2部 こだいら水と緑の会発行)について説明する。最初は、小学校の中学年を対象に5年位前に作成し、平成25年に一部改定をしたものである。もう1冊は、後から小学校の高学年や中学生、または小平の用水に興味を持っている高齢者の方々も対象として、平成25年に新たに作成したものである。

小平市の場合は、小学校4年生が、課外授業を行っている。その際に、小平の用水、上水について知らない子が多いので、簡単にお話しをしていただけないかという依頼をいただいた。その際にパンフレットを子ども達に配付し、説明をしている。昨年には、高齢者の方々からも依頼があった。ふるさと村や図書館、学校等にも配布している。

委員

この冊子は小学校で好評であるが、どうやって手に入るのか。学年で80名程だが、いただけるのか。また、費用はかかるか。

委員

現時点では無料である。水と緑の会に依頼をしてほしい。

委員長

昔の新田開発などが想像できるのがよい。

委員

子ども達からは、なぜ用水が今でもあるのかというドキッとするような質問があった。昔は飲み水であったが今は違う。農業にも使われていない。それなのになぜ今も水が流れていて、用水を必要とするのか。理屈で答えてしまっているが、本当に子どもたちがそれで納得してくれるかどうかというところである。

委員長

そこが用水の本質であると思う。今日はテーマをある程度しぼらなければならない。資料（２）の内容について、何か意見等はあるか。

委員

小平市防災マップには防火水槽の記入がない。用水路を引きこんで、防火水槽を使って循環させれば無駄がないのではないか。

委員長

なぜ用水が今も流れているのかというのは、大変な問題である。用水を転用する場合は様々な問題がでてくる。例えば、上宿緑地のビオトープのように、同じ流れを利用している場合は問題がない。用水の場合はロジックをきちんとしていかなければならない。

過去の提言書を見ても、具体的な物は一つ一つ上げてはいないが結構網羅されていると思う。資料（２）で言っているのは用水めぐりや用水百景などソフトな部分である。前回話があった西武鉄道の菖蒲田のように作っている所や、小川寺が用水を利用して日本庭園のように上手に整備をしている。そういうものが、用水路として歴史的、文化的遺産としての役割を増して用水路を環境整備資源として親水化や緑道などの整備を行い、公共の財産として次世代に継承するという部分になると思う。そういう点では取り上げる価値はあると思う。

委員

水車の復活をやってもらいたい。

委員長

水車と堰と水路の復元図を描けないか。第13期は、公園の整備ということで水車の復活を入れたが、今度はもっと具体的に水車の復活ということで取り上げるのであれば復元図があると良いアピールになる。平面図と高低がわかるもの、昔の写真等があれば描けるのではないか。それができれば用水の歴史的文化的遺産としての役割が増すという部分で生きてくる。

委員

もし個人の敷地の所を取り入れるとなると配慮は必要か。

委員長

復元図だからあまり関係ないと思う。市がやるのではなく緑化推進委員会が作る復元図なので問題はないと思う。

緑化推進委員会でこういうものを作って目玉にするということ是可以する。具体的な物をあげていきたい。

委員

水車用に回し掘した水がどこに落ちているか確認できているか。

事務局

公図自体は、北から南へストンと落ちているが、土地所有の形態は、掘らなければわからないのではないか。ただ、話を聞くなかで、家の土地の中を通っているというのは聞いたことはあるが真実かどうかはわからない。

委員長

家の土地の中を通したというのはどういうことか。

事務局

生活用水のために流れを変えて、より使いやすいうようにしていたという話は聞いたことがある。しかし、水車通りから下流100mくらい暗渠になっていることから、どこが取水口になっているかは現時点では確認が取れない。

委員

仮に想定して水車を作ったとして、24時間体制での水の流れは可能なのか。

事務局

維持管理は、常に付きまとう問題である。冬場は落葉が詰まったりもする。水車が知れ渡ればいたずらや、子ども達が近づいた時の安全の確保などが必要となってくるが、

具体的な考えは現時点では持っていない。

昔小平には水車が数十あり、そのメインが、流量が豊かな新堀用水であった。落葉等の対策はどうするのか。ボランティアの方々のバックアップが取れば通年して動かせるが、例えば、人手の多い春、夏、秋は解放して、冬場は説明したうえで水車を止めるというやり方もあるのではないかと思う。

委員長

昔、玉川上水は、江戸の飲み水であったので一日たりとも止めるわけにはいかなかった。台風の時などは止めておくなど、ある程度決めておけば良いのではないか。水車の復元のような大きなものを取り上げるというのものもあるが、実現の見込みはあるのか。

事務局

庁内で話し合いを重ね、各部署等で承諾を得ながら進めないといけない。水車というものの位置づけは、以前より緑化推進委員会よりご提言をいただいておりますので復活させられればよいと思っています。用水ではないが、小水力発電という視点がある。まだ官民協働には行きつけそうにないが、例えば企業や大学で、小水力発電のモーターを開発しているという話があればプレゼンしていただき、どこか良い場所がないかと提案をいただければ、公園の壁泉の水をまとめて樋状にして落とす所で回して発電させるということも考えられる。このような視点もふまえながら進めたいと思う。おそらく可能性としては高いのではないかとは思いますが、それがいつとは明言できない。

委員

規模は小さいが、ふるさと村に水車がある。

委員長

新堀用水の水の量でいけるのなら、本当の復元である。用水路もあり堰もある。公園上ははっきりしている。

委員長

過去の物を復元するが、現在の生活にも貢献するという両面があれば水車を復元した公園を作る意味がある。緑化推進委員会の提言書にも、具体的な目玉がないといけない。この水車復元は目玉となる。そういう点では良いと思う。

前回の皆さんから出ていた意見をおさらいする。小平グリーンロードの充実。先ほどの水車の復元のようなものはグリーンロードの充実にも入ってくると思う。小平のみどりを質の良いものに変えていく必要がある。市民ボランティアも関わり、用水に来やすい形にすればもっとファンが増えてくるのではないか。生物多様性というのは、質の高い緑を作る、質の高い水路を作ることにつながっているのではないか。また、希少植物

のデータ、リストを作る、これも生物多様性である。玉川上水の木が大きくなりすぎて、野鳥の種類が減ってきている。これも緑の質の問題である。開発があった場合、隣に雑木林があったら土地交換などをして雑木林を延長して広げることができればよいのではないか、ということもお話にあった。例えば、グリーンロード沿いに連結して雑木林を増やすことができれば、これはグリーンロードの充実になる。野火止用水の桜が枯れていくのが気になる。パンジー、すみれが植えられて、今まで小平にいなかったツマグロヒョウモンチョウ、外国から来たアカシボシゴマダラという蝶を見かける。小平の今の生態を知りたい。なぜみどり率を高める必要があるかはっきりさせないと議論は先に進めない。市民の方々に緑を増やしていくための具体的なことを考えていきたい。用水路に関しての具体的な取組み、数値、期日を検討して、少しでも課題を実現させれば、市民が目でわかり、実感していただけると思う。それには、あじさい公園の池をもっときれいにしてほしい。どうすれば池がきれいになるのか。上宿緑地のビオトープなどがあるのだから、あじさい公園は良い所なので何とかできるのではないか。水車小屋がグリーンロード沿いにできると市の名物になるのではというお話もあった。玉川上水は桜が主流であったが、今は他の樹木に負けているので生命力の強い樹木に淘汰されないように保全をしていかななくてはならない。

委員

小金井桜についての話し合いが、昨年暮れにあったが、東京都の担当者と地元との意見にずれを感じる。

委員長

小金井桜は小平市部分が多い。左岸は途中から小平市で右岸は御幸町までが小平市である。それなのに、文化財の指定が小金井である。

事務局

小金井桜の小平市の所管は生涯学習推進課である。小金井市は、市民団体が活発に活動をしている。被圧されている名勝を復活させようという取り組みがある。小平市はグリーンロードなので緑陰があったりする。だから、ケヤキ等の樹木がすべて間伐されてカンカン照りに日が入ってくるようなものはいかかなものかとも思う。玉川上水を守る会をはじめ、見守ってこられた団体の皆さまは非常に愛着がある。危険な樹木は伐採してよいが、保全のしかたには色んな方法があるので、現在は東京都、東京都教育庁、生涯学習推進課で議論をしているのが実情である。

委員長

よく考えると、文化財保護法の管理者責任である。今となっては雑木林の下地ができ、一輪草、二輪草など雑木林本来の植生が育っているのもその辺りの兼ね合いも難しい。樹木が枯れるのは自然行為だが、掘割が壊れるのは文化財保護法違反なので問題である。

委員

関東ローム層は、一度崩れると元には戻らないと聞いたことがある。

委員長

他に、何を提案していくかは、総論的なものより具体的な提案をしていくのが良い。私もこれには賛成である。次世代を担う子ども達へ緑化に関する教育をしていくこと。これは、どのテーマを選んでもついてくる内容である。例えば用水の事なら、これを子ども達へどうやって伝えていくかを考えなくてはならない。小さい公園をまとめて大きな公園にできないか。雑木林を含めた緑の質をもっときちんとした方が良い。用水路活用計画により上宿の北の部分の親水整備ができ、小川緑地も整備をしてビオトープができた。上宿緑地と小川緑地は別の場所か。

事務局

上宿緑地というのは上宿図書館の南側、西武バスの前の小さな三角の土地である。小川緑地は消防署の南側である。

委員長

上宿緑地は自然にできたかわからないが中々よく出来ている。彫刻の谷とのつながりか。

委員

あそこは生物多様性がものすごく良い。

委員長

上宿緑地は本当の樹林と用水がうまくかみ合っている。砂川用水のビオトープ、あかしあ通りの東西の整備も行った。仲町公民館の北側も整備の予定がある。用水路活用計画のあじけない部分を検討して、楽しむ、魅力を再発見するような用水路を巡るマップになるような提案をしてはどうか。ここの写真のなかにはないが、花がいつでもきれいに咲いている箇所がある。そういう所にプレートをつけてはどうか。緑化推進の緑は樹木だけでなく、水も含まれる緑という理解である。12期とは違う提案ができる。住み心地の良い空間を作るとなると緑の質である。それは、小魚であり、虫でもあり、どんぐりであり、鳥である。その辺から考えると小平自身の緑を質の良いものに変えていく必要がある。そうすれば市民ボランティアの参加率も高まり、緑ファンが増えてくるのではないか。ファンができれば次のステップは水の中である。生物多様性という問題があるが、一つ一つ構築していった大きなテーマになればよいと思う。だいたい見えてきているのは、グリーンロードと用水と水車、生物多様性があるというように思っている。皆さんの意見はどうか。

委員

先ほど、上宿緑地や小川緑地の良い所を専門的知識を持っていないとわからない部分から解説をしてもらい、とても興味をもった。こういうことを知ることができるパンフレットがあったらいいと思う。パンフレットを読みながら回することで、質の良い緑とはどういうことかを一般の方が理解することができて、緑を楽しむことができるのではないかな。また、小平の水と緑と蝶や鳥などの生物が全部入ったものがあると良い。今の若い方は、逆輸入で評判になったものに関心を示す所がある。以前、あじさい公園あたりのグリーンロードがドラマにでてきた。これをきっかけにその場所を訪れ、テレビに映った角度を探し眺めてみるとあらためて良さを発見したりする。市民へのアピールの仕方として、小平市の外の人から見て魅力的だと思えば、市民にそれが伝わって市民のファンが増えるのではないかな。その為には小平の自然の魅力を一つにまとめたものがあったらいいと思う。その場所を保全しているボランティア団体等も明記をして参加者が問い合わせできるようにしてボランティアを増やすこともできると思う。

委員

武蔵野美術大学の学生が地域とのつながりを作りたいということで、防災をテーマにしてプレゼンを行った。学生が半年かからないでゲーム感覚のとても楽しい防災訓練を作った。今まで我々の行っていた防災訓練とは全く異なるものであった。この大学の学生は自分で何かをしようという意識が強い。このような学生とコラボをして若い感覚を取り入れることが大事ではないかな。新しい発想のしかた、我々が考えもつかないようなやり方であつという間に子ども達の心をつかんだようだ。6つも大学があるので、若い人達に緑に関することも何か、発想してくれるのではないかなと思う。

委員長

外から見た小平ということに魅力があるということと同じで、彼らは全国から集まってきた。彼らの目から見た小平と同じである。ニセコや地獄谷のように、日本人は逆輸入に弱い。小平市はロケーションボックスはやっているか。撮影の際の橋渡しの様なことである。

事務局

各問い合わせがあった所管の部署がそれぞれ対応している。

委員長

上宿緑地などは良い所であると思うが知られていないと思う。東京都の公園は撮影料を取るが、国営の公園は取らない。昭和記念公園などはカラオケのイメージビデオにどんどん出ている。ただ、駐車場の件など難しい問題もあるが、外から見た小平をオンエアするか新聞に載せるかということも必要である。武蔵野美術大学の件も同じことである。あじさい公園の辺りが撮影に使われたというのであれば、雑木林、水路、玉川上

水の風景など、外から見た小平の良さを外に出してもらって、市民も映像等で認識するという事である。大学との連携の組織はあるか。

委員

小平の大学が連携して設立した、ブルーベリーリーグというものがある。

委員長

緑の関係とコラボできるのか。学生が選ぶのか。

事務局

幅広い視点で行えるようになっている。募集を募り、手をあげてくれた部署とコラボできる。

委員長

まとめ方としては水車を取り上げるのなら、グリーンロードを取り上げざるを得ない。用水百景や用水巡りという案もでていた様に、用水を楽しむといったようなこと、生物多様性についてをまとめることができればと思う。

委員

用水の生物多様性について、具体的なものがない。例えば、用水の生き物の展示など、水槽に入れて、用水巡りの中に出てくる一か所に展示するなどはおもしろい。

委員

多摩川などはそういうことをやっている。外来種も展示している。小平市にもそういうものがあると良い。子ども達へ伝えていくということはそういったことである。魚だけでなく昆虫などもある。質の向上とはこういうことである。

委員

皆さんが知識を持たなければ質の向上にはつながらないが、展示を見に来ることで知識を得ることができる。

委員長

高田馬場近くの施設の大きい水槽の中に神田川の魚が展示してある。今は良い水槽があるのでそんなに管理も大変ではない。標本を展示して解説みたいなものを添えるとよいのではないかと。

委員

今の魚の話にしても用水の中に足を入れるということも、大事なことである。

委員長

例えばこれから水車を作ったとしたら、そこにそういうものを作ることは可能である。在来の施設では土地の問題などもあり難しい。新しい施設に提案していきたい。そういう体験型の施設を盛り込むこともできる。

委員長

政策的なプライオリティをどうやって上げるかということである。機能としては水車の復元やエネルギーの現代的ニーズや、自然体験など象徴的なものを出していかないといけない。水車復元だけを緑化推進委員会で取り上げるわけにはいけないので、その時に水路の楽しみ方もあるし、水路と雑木林を兼ね合わせた生物多様性の向上などもある。グリーンロードに隣接している雑木林の生物多様性の向上もでてくる。

委員

子どもの頃から興味を持つということが大切である。例えば教育委員会とタイアップしないといけないかもしれないが、小平の自然に関して絵や作文を書いてもらうことを小学生に持ちかけて、応募してもらい展示をするということではできないか。

事務局

最近では作文のタイトルがたくさんあり、夏休みの課題として先生方に選んでもらっているような状態である。今はどんぐりの里親制度をやらせていただいて、何年か前に植樹した木の成長具合を、当時の小学生だった方々に見てもらったりして、愛着を持った緑作りを少しずつ進めている。身近なビオトープ作り、体験型のようなものも広めていきたいと思っている。また各家庭でも取り組んでいただけるような物を示していけたらと考えている。

委員

上宿の樹林などに展示スペースを作ってできないか。

委員長

下水道記念館は地方公益業でやっているのか。

事務局

下水道課の所管である。

委員長

ユニークだし、とても一生懸命やっているとと思う。そこに常設で、先ほどの話のような生物展示をすると良い。隣に新堀用水や、玉川上水もあるのでちょうど良い。あら

ゆる施設の横で連携をして勤めなくてはいけないという提言をして、水車公園を作って、展示をすれば、他の施設など色々出てくるのではないか。

事務局

玉川上水沿いだとふれあい下水道館、上水公園テニスコートに若干のスペースがある。

委員

テーマとは少し離れるが、グリーンロードは普通の電灯である。緑の保全を考えるとLEDに変えた方が良いのではないか。

事務局

水車通りから西に向かって、学校が多く通学路になっている部分が少し暗いという要望が学校から出たようである。まず調査をして、フットライト系になると思うが、照度を変えて調査をするということがある。

事務局

今回は16メートルで5基だけである。まず環境調査を行うということである。

委員

稲の場合は影響があるかもしれないが、普通の緑なら影響はないのではないか。

事務局

喜平橋から小金井橋の区間にフットライトを入れている。水路側を囲って、緑道だけを照らすようなLEDに取り替えた。

委員長

都会に住む植物と人間との心遣いというような問題である。調査して進めていくことが大事なことである。防犯とはいかないから、路面の凸凹などが確認できれば良い。LEDで方向性を決めて、その範囲で人間が遠慮して生活するというのが大事である。通行する所であるから、学童の安全などを確保しないといけない。

皆さんの話を聞いたので、次回に案をまとめて持って来たいと思う。防災の時も水車公園をずいぶん推したが、今回は、グリーンロードの充実という面と小平の用水という面でまとめることができればと思う。小平グリーンロードで言えば、周りの生物多様性の話などの管理も水車公園の復元と同じである。ハードの復元とソフトの復元である。雑木林の復元は、新しく雑木林がつくれればよいが、それは中々叶わない。今ある雑木林を、薪にして売ったりしてお金にして生活をしていた時代と同じような生物多様性にする為に、ボランティアの方々が一生懸命行っていることである。水車の復元と、玉川上水、グリーンロードの新しい魅力ということになってくるかと思う。

委員

資料（２）でいただいた小平用水路を取り上げるというのが良いと思う。パンフレットの見直しも良いと思っている。水車復元については、誰かが言いだして、具体的に計画を作って盛り上げると実現しやすい。小平の事例としては、赤い丸ポストがたくさんあるから、日本一大きい丸ポストを作ろうと郵便局も参加して皆でお金を出し合って作った。それから丸ポストのマップを作ったり、写真コンテストを毎回開いたりして小平を盛り上げようとしている。ここで、水車の復元をしようとなったら、私は設計とか全部できるので企画書を作ってもかまわない。以前、小平では作品を飾るのに寄付を募り、名前を入れた。寄付で自分の名前が入るとするのは非常にモチベーションが高くなる。出資を募るにあたっては、水車の記念碑に名前が載るといようなことがよいと思う。私もフランスのパリで有名な日本の建築家の方の設計する建物に娘の名前で出資をしたので完成してから見に行き、とても感動したことがあった。そういうことで出資を集めて実現可能なプロセスを任期はまだ一年間あるので、この一年間皆さんでやっていくというのはとても魅力的である。具体的にこういう物を作って、その為には予算がどのくらいかかるかなどを調べ、市民署名を集めるという運動をするというハードワークをするのも一つのやり方である。他の自治体では、いろんな活性化をしている中でマップなんてたくさんある。それならそのお金を使って、皆で懇親会をしてそこで生まれた何かを生かした方が良いという考えもある。委員で持ち場を決めて、一年間用水路の四季を写真に毎回10枚くらい撮る。そのエリアの環境について、お勧めの場所や、お気に入りの季節や、ベンチや、水車があったらよいと思う場所などをコメントとして添える。小平市は広いので、行ったことがない方もいる。写真を見ながら皆さんとこういう場で話しながら共通の理解としたらどうか。マップなど作らずに写真をスライドにしてインターネットで誰でも見れるようにすることができる。委員の我々自身が用水路の新しい魅力の発見をすることにもつながるのでこういう活動もあると考えている。

委員長

相当ハードだと思う。あと5回なので写真を見るだけで費やしてしまう。逆に言うとそういう媒体を作るという提案もある。私は紙ベースでも悪くはないと思うが、紙ベースではない媒体を作るのも可能ではある。コンテストもできる。そういう気運が小平市に生まれてくるというのが大事である。パンフレットなどはでているというがその中で競争に勝たなければならない。我々が具体的なことを一つ一つやっていくというのも一週間に一度は集まるような時間がある状況ならかなり可能であるが、あと5回の中でやっていくことは難しい。テーマとしてはグリーンロードの充実と用水路の生物多様性や価値を上げるということになると思う。その中で四季の写真を出していただくというのは良いと思う。例えばだが、水車公園の模型を作りたい。

委員

まずは、皆さんが参加して我々が魅力を再発見することが必要である。

委員長

逆を言えば、それぞれが、用水などで、ここは他市の方に見せたいとか、外国の方にも見せてあげたいという場所を1つ以上探してきて発表するというのは良いと思う。

事務局

各委員の撮影したものをスポット集のように載せるのも良いと思う。

委員

市内を描いた水彩画がある。(回覧する。) だいたい1枚描くのに6～7時間程度かかる。

委員長

グリーンロードの充実や用水、水車公園を軸にして、皆さんで用水路の素晴らしいところの写真を持ってきていただいて、水車公園の図面、想像図など分担してお願いできたらと考えている。

また、次回の第4回緑化推進委員会までに各委員で用水路のいいところ、見所の写真を撮ってきてほしい。

以上